

2012年1月1日から2017年12月31日までに
当院で急性喉頭蓋炎にて加療を行われた患者さんへのお知らせ
「当院における急性喉頭蓋炎の現況」

急性喉頭蓋炎は、高度な気道狭窄を急激にきたし致命的となることもあるため迅速な対応が必要とされる疾患です。しかし気道確保を行う適応や時期についてはいまだ基準がない状態です。

そこで今回2012年1月1日から2017年12月31日までに当科で経験した急性喉頭蓋炎について後ろ向きに検討を行います。今回の調査結果をもとに当院における急性喉頭蓋炎の治療が迅速に行えればと思います。

対象者は2012年1月1日～2017年12月31日までに当院で急性喉頭蓋炎にて治療を行われた方です。

研究期間は倫理委員会承認日から2020年3月31日までです。

本研究は川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て行われています。

1. 治療介入を伴わない「観察研究」で、既存資料のみを用いた研究であるため、新たに人体試料は採取しません。この研究で収集する情報は性別、年齢、病因、術後出血の有無、入院期間等で、個人が同定されうる情報(カルテ番号も含め)も収集しますが、情報管理者によって匿名化されます。

2. 本研究は学内研究費のみを使用する研究のため、患者さんに負担が生じる事はありません。

3. 研究をするために必要な資金をスポンサーから提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態と言います。この研究課題を実施する関係者は下記の如く奨学寄付金を受け入れており、これらの企業の中には川崎医科大学附属病院で使用する薬剤を取り扱っている企業が存在しますが利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。

耳鼻咽喉科学奨学寄付金受入企業 サノフィ株式会社、MSD株式会社、大鵬薬品工業株式会社

4. 研究に関してご質問などのある方、研究に参加されたくない方は2018年7月31日までに下記までご一報下さいますようお願い致します。

ご希望があれば他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で研究計画書及び関連資料を閲覧する事が出来ますのでお申し出下さい。

問い合わせ先：川崎医科大学総合医療センター 耳鼻咽喉科 宇野 雅子
岡山市北区中山下2-6-1 086-225-2111 jibika-ok@med.kawasaki-m.ac.jp